

二十歳の誓い

京都の普通の家庭で平凡に過ごしていた私ですが、高校受験を目の前にして、何をしに何のために高校に通うのかわからなくなりました。そんな時、留学経験のある塾の先生の「さくらちゃんは海外に絶対にあうよ」という一言で、自分自身の可能性を感じ、ニュージーランドの高校に4年間通うことになったのです。

日本を飛び出した私は、ニュージーランドという異国のスケールに驚愕しました。まず学校の大きさが日本と比べて全然違います。学校の端から端へ移動するのに走って十五分。いちばん最初に入ったクラスは、世界各国からの留学生が集まっていて、授業中の雰囲気も学ぼうとする意欲も、日本とは全然違いました。英語がうまく話せないという理由もありましたが、私が全く発言できない中、先生が投げかけた質問に対して、みんな積極的にドンドン発言します。その英語がめちゃくちゃでも答えが合ってなくても、先生は真剣に聞いてくれるのです。日本では授業は静かに聞くものでしたが、一歩外に出るとそうではありませんでした。発言力と発想力が求められるのです。

さらに、生活習慣の違いというものを強く感じました。日本にいるときは、当たり前のように毎日お風呂につかり体や頭を洗っていました。でもイタリアやギリシャの友人の話では、ヨーロッパは乾燥していることもあります。水が貴重なので三日に一回ぐらいしかシャワーを浴びないと言われ驚きました。また、仲良くなった女の子ですが、彼女に頼まれたことをしてあげても、「ありがとう」と言わないのです。何があっても「ごめんね」の一言もありません。私が「ありがとう、ごめんね、は言った方がよいよ。」と忠告すると、「日本人であるさくらは、ありがとう、ごめんなさいを言わずだよ。」と言われました。日常の些細なことですが、日本の常識と世界の常識は違うんだということを経験し、相手のこと、相手の国のことを知ることが異文化交流につながるのだということを感じた毎日でした。

それと、日本の素晴らしさにも改めて気付くことができました。お茶とお菓子を用意して現地の友人を部屋に招いたら、「おもてなし」に感動されたり、私が友人宅を訪ねた際に必ず両親にあいさつをしているのを見て、日本人の礼儀の正しさもほめてもらいました。

海外に出たことで、自分の知らない世界を知るとともに、日本人である自分自身を見つめることにもつながりました。私は四月から日本の大学に進学し国際学を勉強します。将来は、留学経験を活かし、日本と世界を繋ぐ架け橋となる仕事をしたいと思っています。世界の人々と共に生きる明るい日本の未来を創っていけるよう頑張ることを「二十歳の誓い」とします。

今日は私たちのために、このような盛大な成人式を開催していただきましてありがとうございました。心より御礼申し上げます。

平成27年1月12日 新成人代表 奥野さくら